

平成 28 年度第 3 回高知県教育委員会協議会 議事概要

【日 時】平成 28 年 11 月 25 日（木）18：30～19：20

【場 所】高知共済会館 3 階「桜」

【傍聴者】36 名

会議の概要

1 前回の議事概要について

事務局から説明

2 校名決定に関する協議

(1) 高吾地域拠点校の校名の決定

「須崎総合高等学校」に決定。理由は、報告書のとおりで了解。

(2) 新中高一貫教育校の校名候補について

(教育長) 委員が順に、推す校名とその理由を述べていただきたい。

(委員)「高知立志館」：理由は、グローバル立志という新設校として始めるのが良いと考える。海外へ若者を出している経営者の視点からも、生徒自らが考える人材がこれからは必要。10 の学習者像は、まさしくグローバル人材の育成につながる。未来志向で思いを校名に込めるのは、大変意義のあることだと思う。

(委員)「高知国際」：今回は、高知県で初めての大きい学校同士の対応統合なので、「高知国際」の新たな名称でスタートしたい。

(委員)「高知国際」：理由は、次の 3 点から考えるとふさわしいと判断した。

- (1) 学校への愛着、さみしさへどう両校に配慮するか。
- (2) 校名が変わるとすれば、どのように両校に配慮するか。
- (3) グローバル教育を中心に据える。

(委員)「高知国際」：新しい中高一貫教育校の教育内容や特色から考えるとグローバル教育の推進校で国際バカロレアを全面に出すなど国際教育を発展させるにふさわしい。検討委員会の報告書の内容。優先順位は、新しい校名への思いの集約だと思う。学校代表者の意見を初めて聞き、良く理解できた。しかし、両校の意見を整理して一つにするのは困難。新しい教育内容を取り入れることによって、入学生、在校生の自信や誇りを持つるように考えて提案した。

(委員)「高知国際」：それぞれの立場、様々な視点がある。新中高で学ぶ子供たちにとって、どれがふさわしいのか。グローバル教育推進校、地球規模で考える学校、新校の目指すもの。校名は、学校の顔であり、子供たちがどういった教育を受けているのか分かりやすい発信力がある。高知県規模でなく、世界規模で考えると分かりやすい校名であり、報告書で高知国際が 1 位となる意味は理解できる。

(教育長) 1 人が「高知立志館」であり、他の 4 人が「高知国際」であるが、委員は「高知国際」に同調できないか。

(委員) 形より、思いを校名に表すのでどうかと熟慮した。他の 4 名と検討委員会の結果もそうなので、私の思いばかり主張しても仕方がない。

(教育長) 私もそれぞれの発言を聞かせてもらい、意見がまとまるのであれば、「高知国際」で良ければ、それで確認させてもらいたい。

→全委員了承。

「高知国際」で賛成の委員は挙手を。

→全委員一致で教育委員会として「高知国際」に決定。

(教育長) 委員が、それぞれの観点から3つのポイントについてご意見をいただいた。その結果として、「高知国際」となった。

一つ目のどういったポイントを重視して考えるかについては、地名、方位、知名度などもあるが、今回は、教育内容や教育目標を体現できる名前にしたいという大方の意見。

二つ目の検討委員会の優先順位は、基本的に尊重する。

三つ目の公募の数、「高知西」「西」合わせて95%を占めたことをどう受け止めるかについては、数自体は、重く受け止めたいことは当然として、上の二つのことを覆すことにはならない。以上の考え方ということではよろしいか。

→全委員了承。

具体的な理由は、報告書の理由に整理してあるのでそれでよろしいか。

→全委員了承。

また、付け加えることはないか。

→なし。

先程の3点のまとめに加えて、直接の理由はこれで整理したい。

3 校名決定に関しての意見

(教育長) この決定に当たり、何かご発言があれば。

(委員) ずっと学校関係者の意見を聴かせてもらい、アメリカ大統領選挙で二人の候補の「分断」について、ヒラリー候補が、未来志向についての素晴らしい挨拶をした。この統合も分断ではないが、ラグビーでいう「ノーサイド」で両校の関係者が、子供たちのために未来志向で学校づくりに力を合わせてほしいと切に切に思う。

(委員) 今回の件で、両校関係者にご意見を聴いたが、元教員として気持ちは痛いほど良く分かる。しかし、結果が出てご心痛は察する。今後、両校の熱い思いが重なり合って、新しい学校づくりを進めていただくようお願いしたい。生徒、教職員、各学校の置かれた状況に影響の無いよう、事務局には特段の配慮をしてほしい。

(教育長) ご懸念の点は、事務局としてきちんと対応させていただく。

(委員) 両校の関係者の思い、特に西校関係者の思いに応えられないのは大変申し訳ない。これまでの西と南の歴史のうえに始まる。歴史がなくなるのではなく、両校が努力して、これからさらに新しい挑戦をしていく。これまでの両校で培ってきた取組、歴史が礎になっていく。これからの両校の関係者の協力をお願いしたい。

(委員) 両校それぞれの立場を聴かせてもらった。私の母校が統合になり名前をなくす経験をして悩む時期があったが、今、その通っている子どもたちを見て、その思いは私の胸に収めていようと思っている。両校関係者は、それぞれ立場が違うが意見も違う。教育委員会も最大限努力を発揮して、いい学校にしていきたい。

(委員) 西校関係者のご意見は重く受け止めさせていただいた。新しい校名でスタートを切った方が良いと思う。スクールカラーは、南がスカイブルー、西が青。とても前向きにいい方向になるように西校関係者に考えてほしい。

(教育長) この決定を受けて、今後は、12月県議会で関係条例の手続きに入ることになる。

○教育長あいさつ

委員の皆様には、悩まれ、心苦しまれ、決定していただいたことにお礼を申し上げたい。統合対象となった関係者の皆様には、ご意見もいただき、傍聴にもおいでいただき感謝申し上げます。

振り返ると平成 26 年度の再編振興計画のスタートから校名の問題は、懸念課題として続いてきた。関係者の熱い思いがあり、まずは統合したうえで考えさせてもらおうとし、その後、ゼロベースで検討していくとしてまずは、計画を決定した。

様々なご意見がある中で、できるだけ客観性、オープンにして議論していくことを考え進めてきた。まずは、第三者からなる検討委員会を立ち上げ、2月から計8回の検討、学校も訪問してもらい、県民から公募もいただいた。その結果を11月10日に報告書としていただいた。

その結果を受けて、教育委員会で3回検討し、本日の結論になった。この結論については、須崎両校は、話し合いをしてもらい1本になった。検討委員会でもこれを選んでいただき決定しやすかった。両校関係者にお礼を申し上げたい。

高知南中高校と高知西高校は、皆様熱い思いを特に西校は要望活動、公募については、高知西高校の名前を残したいことに熱い思いを持っている人が多いことをひしひしと感じた。これを重く受け止めたうえで、悩みに悩み苦渋の決断に至った。正直、ご納得いただけない方も多いと思うが、ご理解を賜りたい。

どういう名前になろうと、卒業生、在校生には母校になることに違いはない。熱い思いを新しい校名になっても寄せてもらいたい。

教育委員会としては、新しい学校の教育内容の充実を図り、誇りが持てるステータスの高い学校を作り上げることで、関係の皆様のお思いに応えたい。